

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、4.0版) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)栄二丁目 新日本教文(株)様マンション	階数	地上10F
建設地	名古屋市中区栄二丁目1607番1、1607番2、1608番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	90 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・集合住宅・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日	2022年6月13日
敷地面積	425 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	326 m <sup>2</sup>	確認日	2022年6月14日
延床面積	2,823 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE0.9** ★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 2  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	地域に調和する敷地利用計画とすると共に、街並みにアクセントを与える建物とする。	
その他		
Q1 室内環境	住戸に自然の光と風を採りこみ開放性を持たせると共に、断熱性と遮音性の向上を図る。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	「ハートビル法利用円滑化基準」対応に努めゆ、とりある空間構成に努める。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	公共空間に圧迫感を与えない建物配置とし、敷地内の緑化に努める。	
LR1 エネルギー	建物の採光・通風・断熱性の向上を図ると共に、省エネ対応に努める。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	設備機器は節水型を採用する。又、リサイクル資材の採用に努める。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	周辺地域の環境を害さない住空間の構成を図る。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

(仮称)栄二丁目 新日本教文(株)様マンション

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.1</b>
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.9</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.090318653	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009031865
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045159326	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.9</b>
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

## 結果

### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



### 2. 自然共生

評価点 = 1.9



### 3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。